

7月にチェコで行われた世界選手権。5大会連続・7度目の参戦となった道場主が日本チームの戦いぶりを振り返る。

数値で見る日本チームの戦い

毎年の世界選手権を迎えるに当たって、日本チームの喫緊の課題であり、選手間でも共有されている目標は「一人でも多くの選手を個人戦決勝に送り込むこと」。その他、個人戦決勝で30位以内、リレーで15位以内という漠たる目標はあるものの、ほとんど全ての選手が、「まず個人戦予選でいかに良い走りをするか」を追求しています。

そうした選手たちは、これまでどのような走りを見せてきたのでしょうか。現行の制度(個人戦3種目がそれぞれ3組に分けられ、各組に各国から1名の選手がエントリー可能。上位15人ずつ、合計45人が決勝進出)となった2004年以降の決勝進出者数(延べ人数)は以下の通りです。

2004年(スウェーデン開催)2人

スプリント男子・山口大助
スプリント女子・宮内佐季子

2005年(日本開催)10人

スプリント男子・山口大助
スプリント女子

田島利佳、宮内佐季子、皆川美紀子

ミドル男子・高橋善徳、紺野俊介

ミドル女子・落合志保子、番場洋子

ロング女子・宮内佐季子、元木友子

2006年(デンマーク開催)3人

スプリント女子・皆川美紀子

ミドル女子・番場洋子

ロング女子・番場洋子

2007年(ウクライナ開催)0

こうした数年の流れを受けて臨んだ2008年の結果は、決勝進出「1人(スプリント女子・番場洋子)」でした。

分析！世界選手権 2008

今年の各個人戦の結果を、「ラップセンター」で示された解析結果を見ながらまとめ直してみます。以下に示したのは、各選手の「実タイム」、「組内トップとの差」、「組内の順位」、「巡航スピード」、「ミス率」、「予選通過ボーダーラインとの差」、「ミス抜きタイムとその場合の順位」です。

12 orienteering magazine 2008.10

スプリント予選の分析

スプリント女子予選

女子B組

1	Signe Soes	DEN	11:07.0
14	番場洋子	日本	12:13.0

予選通過 トップと1分06秒差

ボーダー比0分02秒上

スピード111.5% ミス2.1%

ミス抜きなら11分58秒で13位相当

女子A組

1	Helena Jansson	SWE	11:07.0
15	Jasmine Neve	AUS	12:42.0
23	稲葉茜	日本	13:56.0

トップと2分49秒差

ボーダー比1分14秒下

スピード121.3% ミス5.6%

ミス抜きなら13分09秒で19位相当

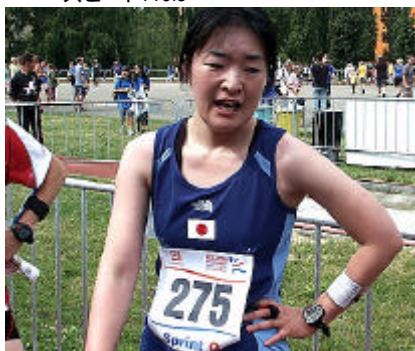
女子C組

1	Dana Brozkova	CZE	11:23.0
15	Eva Makrai	HUN	12:50.0
	小暮円香	日本	失格

近接コントロールでの誤チェック。

フィニッシュタイムは予選通過ボーダーライン+15秒前後

スピード110.5



小暮円香

スプリント予選が終わって厳しい表情

スプリント男子予選

男子B組

1	Matthias Mueller	SWZ	10:48.0
15	Julian Dent	AUS	11:43.0
19	山口大助	日本	11:58.0

トップと1分10秒差

ボーダー比0分15秒下

スピード107.1% ミス5.5%

ミス抜きなら11分08秒で8位相当

男子C組

1	Daniel Hubmann	SWZ	10:58.0
15	Ionut Alin Zinca	ROU	11:41.0
27	加藤弘之	日本	12:38.0

トップと1分40秒差

ボーダー比0分57秒下

スピード111.8% ミス4.7%

ミス抜きなら12分02秒で24位相当

男子A組

1	Alexander Lubina	DEU	10:52.0
14	Vilius Aleliunas	LTU	11:37.0
14	Chris Forne	NZL	11:37.0
14	Simon Uppill	AUS	11:37.0
29	小泉成行	日本	12:26.0

トップと1分34秒差

ボーダー比0分49秒下

スピード109.8% ミス6.8%

ミス抜きなら11分35秒で14位相当



スプリント予選で全員予選通過という大戦果を挙げた中国女子と、同じく予選通過を果たした番場洋子。健闘を称える。

スプリント女子決勝

1	Anne Margrethe H	NOR	12:42.2
2	Minna Kauppi	FIN	12:51.5
3	Helena Jansson	SWE	13:01.1
36	番場洋子	日本	15:30.2



番場洋子。スプリント決勝を走る。

(世界選手権 2008)

ミドル予選の分析

ミドル女子予選

女子B組

1	Inga Dambe	LAT	26:44
1	Helena Jansson	SWE	26:44
15	Sandy Hott	CAN	31:22
20	番場洋子	日本	32:57

トップと6分13秒差
 ボーダー比1分35秒下
 スピード107.6% ミス18.9%
 ミス抜きなら26分43秒で1位相当



女子C組

1	Anne Margrethe H	NOR	26:12
15	Esther Doetsch	DEU	32:18
23	小暮円香	日本	42:15

トップと16分03秒差
 ボーダー比9分57秒下
 スピード135.0% ミス20.7%
 ミス抜きなら33分29秒で18位相当



女子A組

1	Lina Persson	SWE	25:16
15	Capucine Vercellotti	FRA	29:43
28	石山佳代子	日本	48:36

トップと23分20秒差
 ボーダー比18分53秒下
 スピード138.8% ミス34.0%
 ミス抜きなら32分05秒で18位相当

ミドル男子予選

男子B組

1	Baptiste Rollier	SWZ	27:57
15	Michal Krajčík	SVN	32:07

24 小泉成行 日本 35:57

トップと8分00秒差
 ボーダー比3分50秒下
 スピード125.1% ミス8.7%
 ミス抜きなら32分49秒で17位相当



男子C組

1	Mikhail Mamleev	ITA	25:43
15	Wojciech Dwojak	POL	28:45
26	紺野俊介	日本	32:14

トップと6分21秒差
 ボーダー比3分29秒下
 スピード121.4% ミス9.8%
 ミス抜きなら29分05秒で19位相当



男子A組

1	Thierry Gueorgiou	FRA	25:12
15	Ross Morrison	NZL	29:37
29	高橋善徳	日本	37:53

トップと14分03秒差
 ボーダー比9分38秒下
 スピード120.8% ミス22.2%
 ミス抜きなら29分29秒で15位相当



ロング予選の分析

ロング女子予選

女子B組

1	Annika Billstam	SWE	49:26
15	Rasa Ptasekaite	LIT	57:46
21	番場洋子	日本	60:25

トップと10分59秒差
 ボーダー比2分39秒下
 スピード115.2% ミス11.7%
 ミス抜きなら53分19秒で8位相当

女子C組

1	Minna Kauppi	FIN	47:14
15	Louise Oram	CAN	57:44
25	加納尚子	日本	70:06

トップと22分52秒差
 ボーダー比12分22秒下
 スピード138.6% ミス13.7%
 ミス抜きなら60分32秒で19位相当

女子A組

1	Signe Soes	DEN	48:09
15	Una Arama	LAT	54:59
28	石山佳代子	日本	73:13

トップと25分05秒差
 ボーダー比18分14秒下
 スピード125.4% ミス23.6%
 ミス抜きなら55分56秒で17位相当

ロング男子予選

男子C組

1	Daniel Hubmann	SWZ	60:45
15	Robert Banach	POL	69:12
20	鹿島田浩二	日本	72:58

トップと12分13秒差
 ボーダー比3分46秒下
 スピード118.2% ミス4.5%
 ミス抜きなら69分40秒で17位相当

男子B組

1	David Schneider	SWZ	60:47
15	Klaus Schgaguler	ITA	67:30
25	松澤俊行	日本	75:36

トップと14分49秒差
 ボーダー比8分06秒下
 スピード116.6% ミス11.9%
 ミス抜きなら66分38秒で14位相当

男子A組

1	Mats Troeng	SWE	61:46
15	Ross Morrison	NZL	70:22
29	山口大助	日本	84:34

トップと22分48秒差
 ボーダー比14分12秒下
 スピード115.8% ミス20.4%
 ミス抜きなら67分18秒で13位相当





世界選手権 2008 スプリント予選の地図 番場洋子が決勝進出を決めた。日本が最も世界に近い位置にいる競技がこのスプリントだ。

世界選手権 2008 の日本選手

2008年の日本チームのパフォーマンスは、個々に見れば出来不出来の差があるものの、その個人差の度合いも含め、この5年の内で「平均的」と言えるものだった、というのが筆者の実感です。

ここまでのデータから、下記のことを読み取れます。

- ・日本開催時の結果を見る限り、「地の利」というものは確かにある。しかし、他国開催でも予選通過は不可能ではない。
- ・スプリントでの通過数が最も多い。
- ・特定の選手が複数回通過しているケースが少なからず見受けられる。その選手は、スピードがある選手である。
- ・女子の方に通過者が多い。
- ・男女ともロングでは最も苦戦している。

過去7回ロング予選に出場している筆者は、「日本チームはロングで苦戦している」という実状を、身を以って理解しています。その7回の結果（実タイム、組内順位、トップとのタイム差とタイム比）を参考までに示します。なお、99年と01年は、「ロング予選は2組に分けられ、各組に各国から2名の選手がエントリー可能。上位30人ずつ、合計60人が決勝進出」というルールでした。

道場主 松澤の分析

- 1999年（イギリス開催）
79分44秒 39位
トップとのタイム差 17分03秒
タイム比 127%
- 2001年（フィンランド開催）
79分47秒 51位
トップとのタイム差 26分29秒
タイム比 150%
- 2004年（スウェーデン開催）
78分26秒 22位
トップとのタイム差 18分22秒
タイム比 131%
- 2005年（日本開催）
72分31秒 16位
トップとのタイム差 12分59秒
タイム比 122%
- 2006年（デンマーク開催）
70分49秒 17位
トップとのタイム差 9分53秒
タイム比 116%
- 2007年（ウクライナ開催）
74分49秒 22位
トップとのタイム差 17分09秒
タイム比 130%
- 2008年（チェコ開催）
75分36秒 25位
トップとのタイム差 14分49秒
タイム比 124%

ちなみに01年には村越真選手がトップと9分54秒差、トップ比117%の組内25位での通過を果たしています。ですが、ここ数年の世界選手権は、中堅国の躍進などにより、このタイム差・タイム比（2006年の筆者の数値とほぼ同じ）でも予選通過が厳しい状況になっているものと見られます。

日本代表選手の現状

現状の日本代表選手の力を総括すると、以下のことが言えます。

ベストレースをした場合、大概の選手は予選通過ボーダーライン付近となる。例外的に女子のエース級の選手は、ある程度のゆとりを持って予選通過となる。中には、「ミスゼロ」でも通過が厳しいケースが見受けられる。チーム全体として一層のオリエンテーリングのスピードアップが必要である。

オリエンテーリングのスピードを形作るのは、
地の走力
手続きのシンプルさと速さ
シンプルに速く走ってもミスしないという自信と、実際にミスしない技術

といった要素です。 に関しては、類似トレインで多く走った経験（トレインへの慣れ）なども影響するでしょう。来年の開催国はハンガリー。10月には、現地で各国選手を受け入れる公式トレーニングキャンプも開かれる予定です。闘いはすでに始まっています。もしかしたら、もう「後半戦」かもしれません。1年後の予選通過を目指す選手たちは、スピードアップという課題に対して、どのように解答していくでしょうか。

世界選手権 2008 リレー

リレー女子

1	フィンランド	133:14
2	ロシア	135:49
3	スウェーデン	136:27
25	日本	199:03
1走	番場洋子	48:11
2走	小暮円香	72:05
3走	加納尚子	78:47

リレー男子

1	イギリス	138:17.0
2	ロシア	138:58.0
3	スイス	141:49
22	日本	172:25
1走	山口大助	49:20
2走	小泉成行	53:49
3走	鹿島田浩二	69:16



日本チーム、リレーの走りを見守る

戦うのは代表だけではない

ここで、代表選手や強化スタッフの方以外にも少し考えていただきたいと思えます。

問い

あなたは、来年の世界選手権で日本人が予選通過することをどのくらい強く望んでいるでしょうか？

あなたが、来年の世界選手権で日本人が予選通過するために行動を起こすとしたら、何ができるでしょうか？

「日本人から世界チャンピオンを」となると、遥かなる目標に思えてしまいますが、「より多くの日本人選手を決勝へ」となれば、実はそう遠い目標ではないかもしれません。仮にこの5年間の世界選手権で、全員が5%ずつ速く走ったとすれば、予選通過は倍の人数とまでは言わずとも、相当の数増え



日本男子 1走 山口大助

ます。「世界チャンピオンを」となると15~20%のタイム短縮が必要でも、5%なら可能な数字に思えないでしょうか。

ただ、ロードレースやトラック種目の自己ベストを5%縮めることが簡単ではないように、オリエンテーリングの5%のタイム短縮も(特に代表レベルにおいては)簡単なことではありません。個人的取り組みだけでは限界もあります。今回並べたデータは、そうした代表選手の個人的取り組みの限界を示しているともいえます。

一方、日本のオリエンテーリング界は、誰もがその気になれば代表選手と身近な立場に身を置くことができます。地域クラブに入って一緒に練習したり、合宿を企画して代表選手を特別コーチとして招いたり…。つまりは、その気になって行動すれば「誰もが代表選手に好影響を与えられる可能性がある」ということでもあります。

選手たちは、サポーターの方々からいただける力を求めています。一人でも多くの方が、上記の問いについて考え、「その気」になってくださることを期待しています。

(松澤俊行)



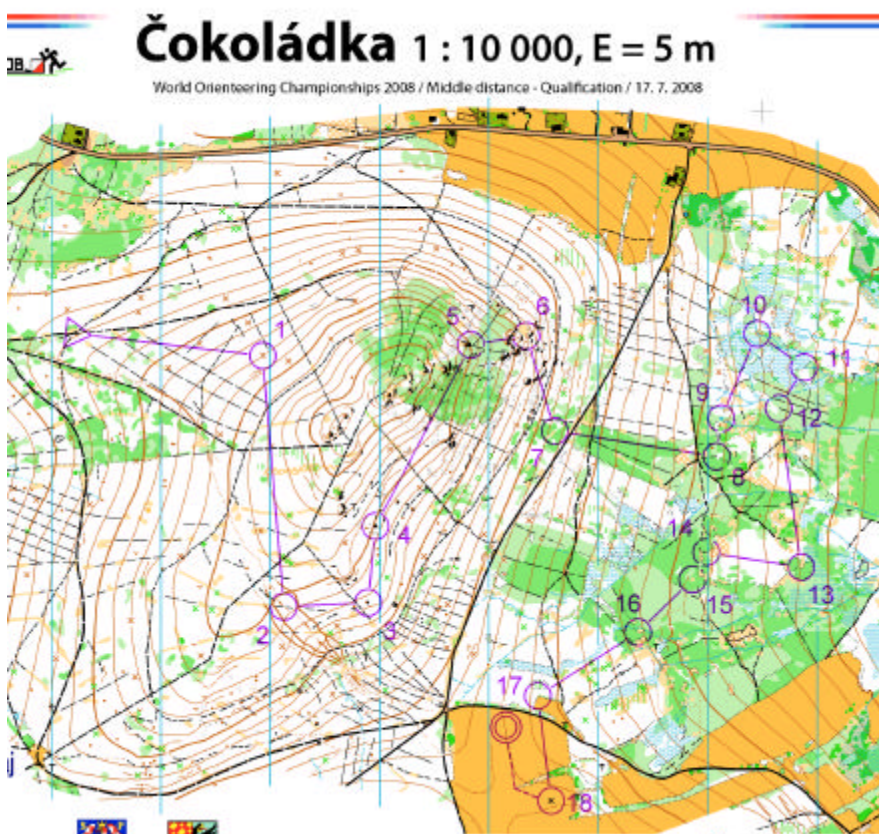
世界選手権帰国後、加賀海岸オリエンテーリング大会で優勝した道場主 松澤。

松澤俊行プロフィール

1972年静岡県生まれ。東北大学に入学した1991年からオリエンテーリングを始める。2003年からの4年間、愛知教育大学 教育学部 生涯教育課程 スポーツ・健康コースで生涯スポーツについて学ぶ。2007年4月からは同大学の大学院に進学し、引き続きスポーツの普及と指導に関する研究を行なう。松塾塾長として、各地で開催する練習会や講習会は、参加者から好評を博している。

ホームページURLは

<http://members.aol.com/mazzawa/index.htm>



ミドル予選男子 A 組の地図。なだらかな地形が印象的